

十二月の手技材料

六八

目白幼稚園 和田 實

例によつて、十二月の半ばから、一月半ば迄の保育材料に就いて考へて見ませう。

一、歳暮賣出し、が所々に、ちんどんやの伴奏で賑かに、はやし立て、居るでせう。一としきり、ちんどんやの眞似が、拍子をとること、多くの子どもを喜ばせるでせう。此機を逸せずに、商内遊びが面白く出来ず。其計劃に就いて書いて見ませう。

先づ商内の種類を魚屋、八百屋、御馳走屋（料理した食料品）の三種とするのが、支度が便利でもあり、子どもの豫備観察も相當にあるでせうから都合よいでせう。仍て、魚屋の準備から始める

として、圖畫紙に、鯛、鰈、鯖、鮭、鱈、鱈、鰯、鰺、鰯、鰯等の生き魚の全形を輪廓だけ描いて渡し、之を適當に色塗りさせた上で、切り抜かせて置きます。此時材料にボール紙を用ゆることが出来れば尙更結構でせう。次には、八百屋ですが、是も魚屋と同様な方法で、大根、にんじん、ごぼう、さといも、さつまいも、かぶ、白菜、とまとほうれんさう等子供達のふだんの観察の結果を云はせて見て、其知つて居るものを、成る可く豊富に揃へる様にするがよいと思ひます。次には御馳走屋の支度です。材料には色々のものを用ゆる必要があります。氣の付くまゝに書いては見ますが

子供と相談して、子供の創意を以て夫れ々々用意させるがよいと思ひます。

お刺身。此の材料はにんじんと大根とが適當です。容器は紙製の皿か折にして紙を細く切つたものを枕妻として、大根とにんじんを適當な刺身に行儀よく切つて並べて一人前分を造る。是を數十人前用意する。成る可く一つ二つの手本を造つて見せて、多くの子供に模造させる。

野菜さらだ。是は、大根とにんじんを適當に切つて、皿か折に盛り、まよね¹を掛ける。まよね¹はうどん粉を薄糊に煮て黄色に色づける。是は糊を煮ながら、クレオンのかけら一片を投ずれば適當に出來ます。折と皿とに蠟をひいて水氣の染み込まぬ様にすれば宜しいでせう。そして、是等の作業も成る可く、子供に行らせて欲しいものです。一つ二つ模範を示すと、直に出來る筈です。

フライとカツレツ。是は粘土細工で用意します。

其造り方など説明は要りません。序に、メンチボール、コロッケ、ロールキャベツなど子供の氣のつくまゝに造らせて宜しいでせう。

昆布巻き。紙と毛絲等を材料として出來ます。黄豆。青桐の實やドングリ、又は實物の豆を用いて宜しいでせう。

なめ味噌。金山寺、鐵火など子供の知つて居る程度にて、糊又は粘土を適當にゆるめて、之に大根、にんじんをあしらへば、丁度よいものが出來ます。

佃煮。はぜ、むきみ、昆布、などボール紙の屑で、充分間に合ひませう。色は適宜につけることです。

其他、子供の氣づいたものを聞いて適當な材料を出して遣るとよい加減に調ふでせう。是で商品の用意は出來ました。次には、店の支度ですが、是は机を適宜に使ふことで間に合ひますから、最後には買手の使ふ錢の用意です。是はボール紙を圓く切つて五錢十錢の白銅貨若干と一錢銅貨多數

と、造りませう。是で、用意はすつかり出来ました。賣り手と買手と見物とに幼兒を適當に分けて愈々商内遊びです。遊びか倦きない中に、三つの組々交互に交替させて、充分に遊ばせませう。

二、クリスマス。本月は二十四日で終りますから幼稚園は此日にクリスマスを行ふのが宜しいでせう。先づ其用意をませう。第一の用意はトリイに飾る玩具の製作です。是はお祭りの後で、分配して持つて歸らすものですから其積りで造らせませう。

しほり。紙のしほり、布切れのしほり、ボール紙のしほり等で紙には畫か縫取り、布には縫取させて造る。

折紙細工。折紙にてつるや、福助や等を造る。

厚紙細工。ボール紙で自動車、小箱、家などを造り、之を適當な色合に塗り上る。

人形細工。紙、綿、絲等を材料としたもので、

適宜に工夫したものを造らせる。

袋。是は當日持つて歸る玩具や、お菓子を入れて行く爲めに用意するもので、一人が二枚づ、貼ればよいでせう。以上で、子供の造る可きものは出来ましたが、先生もなる可く子供と一所に製作して、其成績物を各子供に一つ宛入れて遣れる様にしたら結構だと思ひます。

手技方面の支度は是で出来ましたが、當日のプログラム爲めには、唱歌の練習、舞踊や遊戲の練習。お話の練習なども必要です。是等の支度が出来上つたら、愈々當日の順序ですが、是は書く迄もないでせう。

三、お正月のかるた遊び。お正月のお休みもすんで、幼稚園が始まつたら、當分はかるた遊びが行はる可きでせう。先づ始めには、單語いろはかるたを造りませう。

單語いろはかるた。是は犬、猫、凧など子供の

勝手に好きな名詞を云はせ其畫をかるたに描かすので、各字毎に一人一枚を造ると二十人の組では二十組のかるたが出来る譯ですが、中には物にならないのもあるでせうから、半分位さり役には立ちますまいが、夫れでも結構です。之をひと廻はり使つて立る中に、相當飽きるでせうから、今度は文句のかるたを造りませう。夫れには、先づみんなと相談して、一字づゝ文句を選定することです。自由に銘々の云ふのを聞き取つて板書して、其中から適當なものを若干選定して夫れに畫をつけさせるのです。畫は選定した若干文句の中、各兒の氣に入りたるものに自由 付けさせればよいのです。そして、一字づゝ物にして行くと、仕舞には若干組の「いろはかるた」が出来ます。之をまた一と廻はり使つて居る中に可なり「かるた取り」に慣れるでせう。次には「かぞへかるた」をしませう。之は前號にも一寸書きましたから、茲には

書きますまい。かるたの臺紙は白ボール紙を用ゆるのが一番輕便ですか、四五回使つた上廢棄するとすれば圖畫用紙でも結構です。かるた取りが飽きたらば羽子突きと、凧上げですが、霜解けや、風や、雪の爲めに、外が充分に使へぬとすると凧上げは充分には出来ませんが、羽子突きは屋内で充分出来ますから、之を奨励するがよいでせう。かるた取りが靜かに頭を多く使ふ遊びですから、

「羽子突き」や「毬投げで」運動的方面を少し奨励しなければなりません。羽子突きの羽子は市販のものが、ぢきにこはれるので困りますが、こはれた羽子の玉を色紙で包んで用ゆると結構使へるものです。之はこはれる心配はない代りに飽きますから、時々包み紙を取り代へて遣ると、却つて面白く遊ぶことが出来ます。

毬遊び。には種々な遊び方があります。數突きは最も普通のもので、^{ひよこ}一二三四と數を突くので、

幼児には最も適當の突き方です。之にはしやがんでするのと、立つたままするのとありますが幼稚園児としては立つて突くのが最も適當です。働作が大きくて容易たやすもあり、運動にもなるからであります。幼児二人が向き合つて、交互に突く仕方、之も幼児には適當な遊び方で面白いものです。矢張り數へ方は云はせるが宜しい。毬の大きさは徑五六寸のが適當です。

以上で、お正月の材料を終わりますが、羽子突きと毬突きとを手技材料の中に入れてことに就いて序ですから、少し説明して置ませう。元來、フレイベルの手技恩物 机上で取扱ふものばかりですが、幼児の遊ぶ手技は決して、之に偏す可きものではありません。

机上の手技は幼児の手を漸次、作業に導き手工に導きますが、机を離れての手技は身體四肢の動作の發達を促すもので、人生には極めて重要な活

動であります。幼児の手技は指相撲の様な小さな道具なしの手技から始めて、糸の綾取り、糸結び等から紐置き、折紙、人形造り縫取り刺繡等と手工的に發達すると共に、一方には羽子突き、毬突き、獨樂廻はし、根木倒し、竹馬、輪廻はし、ぶらんこ乗等全身的運動方面に發達し來るものであります。是等兩方面の發達は何れも人生に重要なもので、決して一方を採り一方を捨てる可きものではありません。フレイベル式恩物のみが必要であることを知つて、若し一方全身的活動へ向つての發達を顧みることがなかつたら、兒童の發達は必ず偏傾したものになるでせう。注意しなければなりません。是吾人が一方にフレイベル恩物を輕視しないと共に我國固有の手技發達を重要視する所以であります。兎角、教育社會に於ても舶來の方法をのみ重んじて、古來の國産的貴重品を忘れるのは慨はしいことです。